

浅間山の火山活動解説資料

気象庁地震火山部
火山監視・警報センター

浅間山では、地震活動や地殻変動に、変化がみられています。

火山活動がさらに活発化する可能性がありますので、今後の火山活動の推移に注意してください。

防災上の警戒事項等

引き続き、火口から500mの範囲に影響を及ぼす程度のごく小規模な噴火の可能性があるので、地元自治体等の指示に従って危険な地域には立ち入らないでください。突発的な火山灰噴出や火山ガス等に注意してください。

<噴火警戒レベル1（活火山であることに留意）が継続>

○活動概況

浅間山では、15日頃から、浅間山の西側での膨張を示すと考えられるわずかな傾斜変動が認められ（図1⑥）、20日頃より山体浅部を震源とする火山性地震が増加しています（図1③）。また、本日（22日）に実施した火山ガス観測では、火山ガス（二酸化硫黄）の放出量は一日あたり800トンと多い状態でした（図1②）。

この火山活動解説資料は気象庁ホームページ（https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php）でも閲覧することができます。

本資料で用いる用語の解説については、「気象庁が噴火警報等で用いる用語集」を御覧ください。

<https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/kaisetsu/kazanyougo/mokuji.html>

この資料は気象庁のほか、関東地方整備局、国土地理院、東京大学、国立研究開発法人防災科学技術研究所、国立研究開発法人産業技術総合研究所及び長野県のデータも利用して作成しています。

資料の地図の作成に当たっては、国土地理院発行の『数値地図50mメッシュ（標高）』を使用しています。

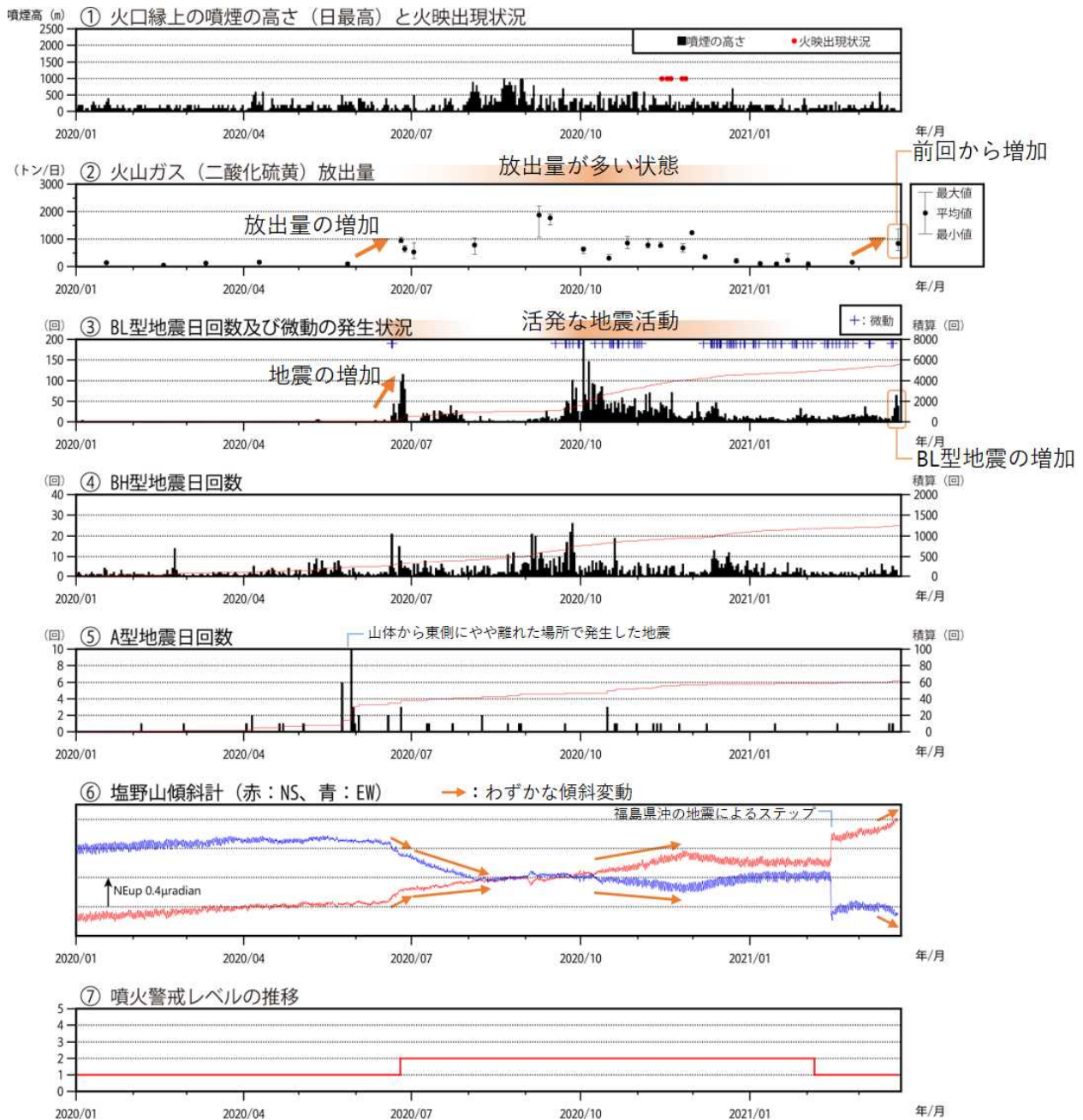


図1 浅間山 火山活動経過図（2020年1月1日～2021年3月22日15時）

- ・15日頃から、浅間山の西側での膨張を示すと考えられるわずかな傾斜変動が認められます。
- ・20日頃から、山頂浅部を震源とする火山性地震が増加しています。
- ・本日（22日）実施した火山ガス観測では、1日あたりの火山ガス（二酸化硫黄）の放出量は800トンと、前回（2月25日）200トンに比べて多い状態でした。

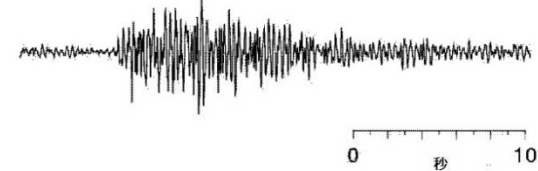
A型地震：P,S相が明瞭で卓越周波数は
10Hz前後と高周波の地震



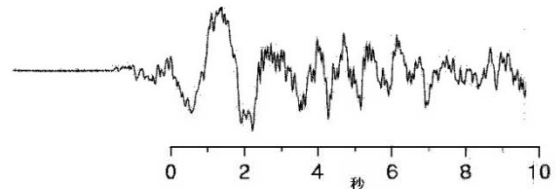
BL型地震：P,S相が不明瞭で卓越周波数が
約3Hz以下の地震



BH型地震：S相が不明瞭で卓越周波数が
約3Hz以上の地震



EX型地震(爆発型)：爆発的噴火に伴って発生する地震



BT型地震：一定周波数の振動がゆっくりと
減衰していく地震

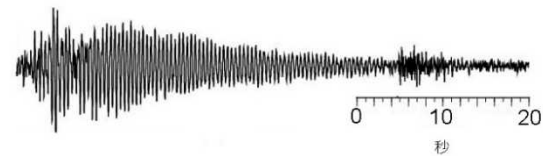
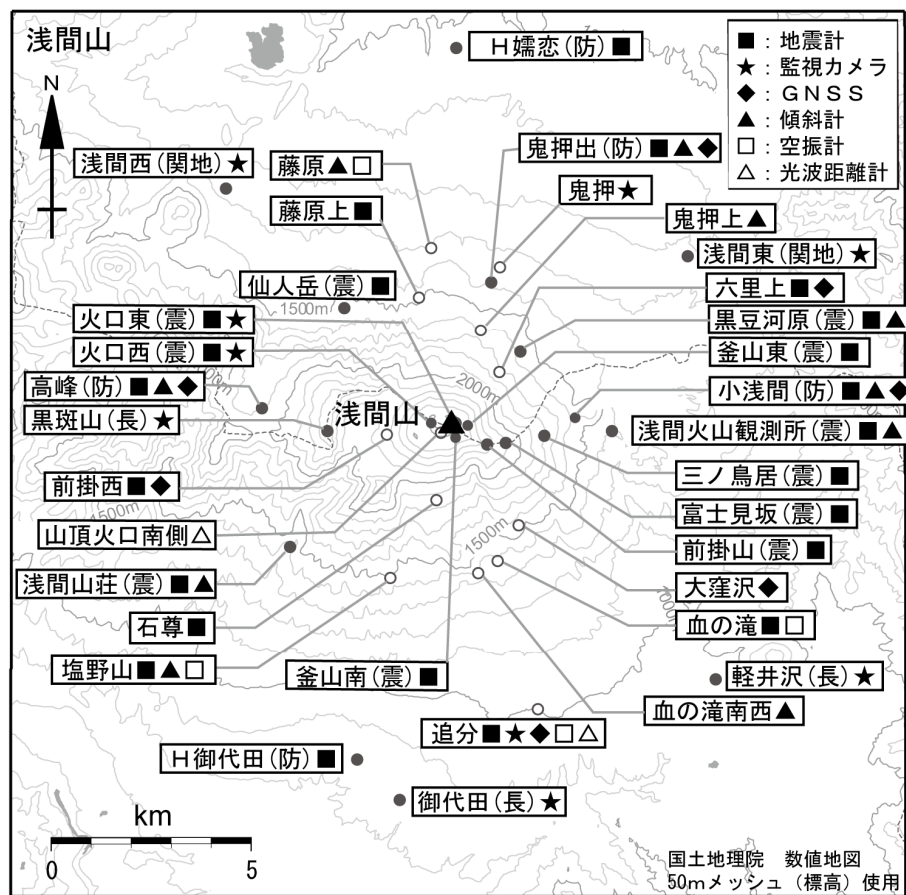


図2 浅間山 主な火山性地震の特徴と波形例



小さな白丸(○)は気象庁、小さな黒丸(●)は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。
(国)：国土地理院、(防)：防災科学技術研究所、(震)：東京大学地震研究所、
(関地)：関東地方整備局、(長)：長野県

図3 浅間山 観測点配置図